

令和7年度第2学期始業式式辞（全日制）

皆さん、おはようございます。

今年の夏も猛暑でした。連日の暑さの中、皆さんは夏期補習、部活動、芸術文化発表会、運動会準備などに一生懸命取り組んでいる姿を見せてくれました。おそらく、多くの皆さんが充実した夏休みを過ごせたのではないのでしょうか。

さて、今日は始業式に際し、この夏休みに私が感じたことや考えたことを、少し皆さんにお話したいと思います。

まず、一つ目は8月6日の「原爆の日」に、広島で開催された平和記念式典で地元の小学6年生、佐々木駿さん、関口千恵璃さんの二人が行ったスピーチ「平和への誓い」についてです。感動的なスピーチでした。中でも「世界では今もどこかで戦争が起きています。大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。その事実を自分のこととして考え、平和について関心を持つこと、多様性を認め、相手のことを理解しようとするのが大切です。」という言葉が、私の心に深く響きました。二人のスピーチは、「遠い国で起きている戦争を自分のこととして考え、相手のことを理解しようとする大切さ」すなわち、「想像力」の大切さを、改めて私に教えてくれたのです。感動した私は、スピーチをした佐々木君のことを調べてみると、小さい頃に原爆ドームを見て、「なぜあの建物はボロボロなのか、なぜボロボロなのに壊されずにそのまま残っているのか」、お母さんと一緒にインターネットや原爆資料館で調べて、自分の生まれた広島に原爆が落とされた事実を知ったようです。そこで佐々木君は、広島を訪れる多くの外国人に、あの日広島で起こったことを伝えたいと思って、小学2年生の頃から外国人に英語でボランティアガイドを始めています。これまで佐々木君がガイドをした外国人はおおよそ2000人というから驚きです。彼は、あるインタビューで次のように語っています。「ある日、僕がガイドした外国の方が、『君のガイドによって、核兵器はなくすべきだ』という考えに変わったと語ってくれました。ガイドすることで人の気持ちが変わると思うとやりがいを感じます。」と。私は、人の考えを変えるような小学生がいることに感心させられると同時に、本当に素晴らしいことだと思ったのです。

もう一つは、この夏、全国高校野球選手権大会に出場した県立岐阜商業高校の横山温大選手のことです。彼は生まれた時から左手の指がありませんでしたが、小学3年生の時、兄と同じチームで野球を始めました。最初は、義手をつけてプレーをしていましたが、元大リーガーのアボット選手が先天性の障害で右手首から先がないにもかかわらず活躍していたことを知り、アボット選手と同じように、外野の守備をする場合は、グローブをつけた右手でボールをキャッチして、素早くボールごとグローブを左脇に抱えるとすぐに、右手でボールを取り出して送球することを繰り返し練習したようです。また、バッティングでは右腕だけでも打てるようにと、右打ちから左打ちへと転向しました。25キロのダンベルで鍛え上げた右腕は、左腕より一回りも大きくなり、スイングスピードはわずか1年足らずで10キロ以上も向上して、今では野球強豪校のレギュラーとして、見事な活躍を見せてくれました。彼の母親は、「息子が生まれたとき、最初はショックで、息子に申し訳ない気持ちでいっぱいだった。」とあるインタビューで語っていました。それに対して、横山選手は、「母さんにそう思わせてしまって申し訳ない。」とコメントしています。また彼は、「自分みたいなハンディを背負っていても、関係なくできるんだぞっていうところを甲子園の舞台でもしっかりアピールして、ハンディを抱えた子たちにも勇気や希望を持ってもらえるようにプレーしていきたい。」とも語っています。そんな彼の辛さやしんどさを、そして結果を出せた時の喜びを、皆さんの「想像力」で感じてみてください。横山選手の気持ちを想像した経験は、きっと皆さん自身が本当に自分の夢に向かって最大限の努力ができているかを測るものさしになってくれるに違いないと私は思っています。

これから始まる2学期は、運動会、文化祭、新人戦、高文祭など、多くの行事が盛りだくさんです。仲間と、学びあい、支えあい、高めあいながら、互いに成長できるように、お互いの立場を想像し、助け合いながら歩む2学期にしましょう。皆さんの活躍を期待して、式辞とします。